

修士論文要旨

論文タイトル：「対日医療観光ビジネスの現状と将来性について」

—健康診断とガン治療を中心に—

学籍番号：AM20015

氏名：ZHOU LIQIN

指導教授：後藤 康浩教授

【論文の構成】

- はじめに
- 第1章 問題の認識と研究目的
- 第2章 問題状況の分析
- 第3章 先行研究
- 第4章 仮説の提出及び検証
- 第5章 コロナの影響
- おわりに
- 参考文献

【論文の内容】

1. 研究目的

本研究はアジアから日本への医療観光（メディカル・ツーリズム）の現状と将来性を健康診断及びガン治療を中心に、調査・分析し、今後日中企業間において業務提携が可能になる新たなビジネスモデルを検討し、ビジネスプランとして提案していく。日中企業間の戦略連携によるシナジー効果を期待し、日中間のビジネス交流と発展の方向性を示したい。

2. 問題状況の分析

医療観光ブームが本格的に世界で登場し始めたのは1990年代である。インターネットの世界的普及や国際間の交通網の発達も手伝って、医療観光は世界各地に広がりを見せている。日本政策投資銀行の報告によると、世界約50国で医療観光が実施されているという。アジアを中心とした新興国の病院は、先進国に比べて割安な料金を売りに、富裕層の需要を取り込んできた。政府も医療観光客の査証（ビザ）要件の緩和などで検診をうける旅行者と患者を誘致してきた。

近年、医療観光市場の拡大と発展に伴い、日本の医療観光業界の競争が激しくなっている。医療観光を進める上で最も重要なのは技術的な優位性と価格競争力である。日本の医療技術は市場の要求に合致しているが、医療コストは諸外国よりも高く、業界規制が多いので競争も激しいのが、この業界のボトルネックとなっている。以上の背景と問題意識より、日本と中国の医療観光の現状に着眼し、中日医療観光ビジネスモデルに関する将来性について研究していきたいと考えている。

3. 先行研究

関連文書を見ると、日本の医療観光に関する研究文献は比較的少ない。従って日本の医療観光に関するアカデミックな分析作業はあまり見受けられない。中国医療観光の研究について、2000年に入ると、中国の学術雑誌にメディカルツーリズムに関する研究が少しずつ出始めた。初期の論文はメディカルツーリズムの概念や、積極的にメディカルツーリズムを推進するアジアの国々の紹介、そして、メディカルツーリズムの経済効果の紹介に重点を置いていた。しかし、中国大手学術情報検索ウェブサイト「知網」を通じて医療観光関連の文献データを調べても、ここ数年は毎年1、2編の文献しかない。また、近年の急速な経済発展に伴い、医療観光の現状も大きく変化しており、さらなる研究の必要があると感じている。

4. 仮説の提示と実証

仮説1：日本と中国の医療交流・協力は医師やスタッフの数、先進医療機器の導入状況などの格差

からみて、今後も長期間、日中の相互補完関係が続き、発展の可能性が高い。

仮説2：日中間のメディカルツーリズムがさらに発展するには、情報交流の拡大や言語の壁をより低くする必要がある。

①「検診」を目的とする訪日メディカルツアーリズム

中国の旅行会社と日本の病院のコラボレーションで、中国の観光客が来日する間、一泊二日間の日程で日本の健康診断センターや病院で健康診断を受ける。

②ガン治療と治療後のリハビリ介護・訪日観光を組み合わせた「癌治療」ミックスツアー：新たなビジネスモデルの創出と地域新産業振興プロジェクト。

実証

仮説を証明するために、既存のデータや資料の分析を中心とする事例分析とによって研究する。
福岡観光ツアー、メディポリス国際陽子線治療センター、亀田メディカルセンター

5. コロナの影響

現在、医療観光は人々の観光の重要な部分になる。2020年初頭には、コロナの感染拡大により、健康意識が急激に高まり、自身の健康状態に対する関心が高まり、消費観念や消費方式がある程度変化した。これからの長い間、医療観光は人々の観光に占める比重が大きく増加し、健康は人々の生活の重要な一部になると予想される。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない、医療ツーリズム市場の冷え込みは当面続く見込み。特に外国人富裕層を呼び込んできたアジアの病院大手が苦戦する。医療観光の低迷はまだ続く。

6. 結論

今回のコロナは経済への影響が全面的で、現在ほどの業界にも波及していない。しかし、コロナ後大健康産業は大きな変化を迎えると予測されている。医療、生命健康産業の新たな発展政策が含まれている。公衆の健康意識はさらに向上するだろう。消費需要はマスクから他の健康分野に絶えず拡大する。漢方医の外治は普遍的に認められ、普及し、実用的になるかもしれない。コミュニティ医療サービスのレベルがさらに向上する。したがって、コロナ時代終わった後、康養観光の需要が急増するだろう。

医療ツーリズムの発展を積極的に推進しなければならない。医療ツーリズムを推進するためには、まずその受入れ医療機関を整備し、医療ツーリズム誘致をしなければ始まらない訳ですが、実は日本の場合、大変ややこしい状況になっている。現状を簡単に、経済産業省は医療ツーリズム積極的推進、厚生労働省は消極的推進、観光庁は中立的と、医療ツーリズムに関わる行政省庁の取組みが三つ巴みみたいな状況で、一体化していないのである。したがって、旅行代理店など海外の医療ツーリズム仲介者にとっては非常に分かりにくい受入れ態勢なのである。

そして、事例分析により、医療観光に存在する具体的な問題を分析し、その上で問題点とビジネスモデルを提出し、問題を解決する。医療観光をさらに推進する。これからの長い間、医療観光は人々の観光に占める比重が大きく増加し、健康は人々の生活の重要な一部になると予想される。これらの問題は解決すべきである。これは、今後の研究課題である。

【主要参考文献】

1. 一般財団法人日本総合研究所『平成28年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備（観光サービス産業の国際競争力強化に関する調査）報告書 平成29年3月
2. 一般社団法人メディカルツーリズム協会『医療ツーリズムの最近の動き：インバウンド』
https://www.medical-tourism.or.jp/column/mano_column_4/（最終閲覧日：2021年12月22日）
3. 『医療観光市場は、2027年まで12.8%のCAGRで目覚ましい成長が見込まれています』2021年1月15日
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000540.000067400.html>（最終閲覧日：2021年12月22日）
4. 経済産業省『外国人患者の医療渡航促進に向けた医療コーディネート事業者のあり方等に関する研究会（第1回）-配布資料』資料6 亀田総合病院（説明資料）
5. 中国高齢科学研究センター『高齢ブルーブック：中国都市と農村部の老人の生活状況調査報告（2018）』
6. 徐蘭、大島一二『日中医療制度の比較と中国人観光客の『医療観光』への影響』桃山学院大学経済経営論集第Vol. 6, No. 4, pp7-20
7. 張文菊『我国医療観光研究綜述：基于文献計量分析的研究視角』[J] 河北旅游職業学院学報、2016(3)
8. 森藤ちひろ『国内メディカルツーリズムにおける移動動機』マーケティングジャーナル
Vol. 39, No. 4(2020), pp42-52